

第 5 3 次南極地域観測隊同行者編成（案）

1. 同行者枠について

「しらせ」

- ・ 「しらせ」の乗船収容人数は 80 名。一方、第 5 3 次南極地域観測隊は 65 名により編成予定であるが、そのうち 8 名については、往復「しらせ」を活用しない。
- ・ このため、「しらせ」同行者枠は 23 名 ($80 - (65 - 8) = 23$)

「海鷹丸」

- ・ 専用観測船同行者は調整の結果 6 名から 10 名に変更。

よって、同行者数は 33 名 ($23 + 10$) となる。

2. 同行者編成について

- ・ 同行者 33 名の編成は、以下を基本に調整を図る。

分 類	同 行 目 的	人 数	
		しらせ	海鷹
報道関係者	第 5 3 次南極地域観測隊に同行し、昭和基地等において現地取材、報道を実施。	0 2	—
教育関係者	小中高等学校の教員を昭和基地に派遣し、衛星回線を通じて「南極授業」を実施。	2	—
技 術 者	南極昭和基地大型大気レーダーによる観測の支援や観測用小型ヘリコプターの運行。	7	—
外国人研究者、国内研究者、大学院学生、行政機関職員 等		14 12	10 6
小 計		23	10 6
総 計		33 29	

注) 朱書きは、前回会議との変更箇所。人数は、現時点での計画数であり、今後の調整を経た上で、南極地域観測統合推進本部総会（連絡会を含む。）において決定される。

<手持ち資料>

53次隊員65名のうち、

- (1) 海鷹丸乗船者 3名
- (2) セールロンダーネ派遣者 5名

の計8名が「しらせ」に乗船しない。

しらせ乗船の隊員総数は、57名A(往路)となる。復路は、越冬隊が1名減で56名となる。

同行者の人数見込み

- (1) 日本新聞協会 0名(文科省にて募集した結果)
- (2) 教育関係者 2名(極地研の教員派遣)
- (3) 技術者 7名(PANSY 4名、地圏1名、ヘリコプター要員2名)
- (4) 大学院学生 5名

の計14名。

- ・ 海外からの研究の受入の要望はない。
- ・ この他、公開利用研究の2次募集に応募があれば、国内研究者が増える可能性がある。